

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500155		
法人名	社会福祉法人 はつらつの里		
事業所名	グループホーム はつらつ宮の原		
所在地	千葉県八街市山田台宮の原966番地ノ2		
自己評価作成日	2020年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA
所在地	我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和2年10月30日(文書評価)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ゆとりある時間と住居の中で、個性を尊重した家庭的な環境の下で、入居者様お一人お一人が楽しく生き甲斐のある生活を実現できるように支援いたします。温もり・家庭・馴染み・笑顔・怒の心を理念に掲げ全職員で共有しより良いサービスを実践できるよう努めます。今年度は新型コロナウイルス感染防止の為、日常的な外出が出来ないため、レクリエーションの充実を図り職員と入居者様一緒に季節の飾りや、職員の考えたゲーム等を行い、楽しんでいただきたいと思います。ご家族様と利用者様、そして当施設とのより深いつながりや信頼関係を保てるように、日々の近況や健康状態等を細やかに連絡していきます。家庭生活で行っていた日々の食事作りや掃除等を毎日の生活日課に取り入れ、生き生きとした張りのある生活作りに努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

軽費老人ホーム、老健、ケアハウスを運営する社会福祉法人経営の当ホームは、合同の研修会・行事などの連携のもとホーム理念の実現に全職員で取り組んでいる。昨年の台風の被害が漸く収まった中で、新型コロナ禍が追い打ちをかける状況となっている。その感染防止の為に外部の方との接触を禁止、ご家族との面会の制限、散歩やドライブ・外食などの殆どの行事が中止に追い込まれた。その為に利用者にとの様に楽しい毎日を過ごしていただくかを考えた屋内におけるレクリエーションや運動・外気浴などに工夫を凝らしている。利用者も「楽しい時は痛さも忘れる」(施設日より)などの声もあり、和気あいあいのホームの運営がうかがわれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します (○ 印を記入ください)

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念や毎年度の目標をホーム内に掲げ、全職員で実践及び評価を行っている。	「ぬくもり・家庭・馴染み・笑顔・怒の心」のホーム理念が制定され、事務所内に掲示している。この理念の思いで職員が利用者の支援にあたっているかは、会議や日常の支援の中で話し合い、周知を徹底している。	新型コロナ禍の状況のために、文書(書面)評価とした。提出いただいた①自己評価・②追加提出資料・③研修会・行事計画書・④アンケートグラフ・回答内容等を参考に実施した評価である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	従来は日常的に交流を図っていたが、新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は実施しておりません。	自治会に加入し、住民とは散歩時の挨拶や時々来所してくれる方もいた。地域のお祭りやカラオケ大会には毎年参加し、ボランティアの来所も多かったが、コロナ禍以降は殆どの外部との付き合いを残念ながら自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	従来は認知症カフェ等を行い地域の方への支援を行ってきたが、新型コロナウイルス感染防止のため、今年度は実施しておりません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度まで年2回実施していたが、新型コロナウイルス感染防止のため今年度は実施していません。八街市より許可を受けています。	前年度は地域住民やご家族の参加を得て年2回実施して、外部の方やご家族の意見を聞く機会となっていた。しかし今年度はコロナ禍のために、八街市の了解をえて、開催は中止としているが、開催可能となれば実施予定である。	開催が困難な状況であるが、再開時に向けて外部の有識者などを増やす取り組みをご検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自己評価の結果、入居状況等について相談等、市担当者と面談している。また市の研修等のとき、施設の運営について話したりしている。	市の窓口は高齢者福祉課であり、地域ケア会議や集団指導、研修などの際に話し合っている。南部包括支援センターが近くにあるので、相談あれば訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1度、研修会を開催し全職員が理解し、行動制限をしないケアに取り組んでいる。法人主催の研修会にも参加し取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針を制定、令和2年度施設内研修計画に年6回の研修会(新任者・全職員)を計画し実施している。法人本部でも研修会があり、身体拘束をしないケアの実践に努めており、ホームでは該当する利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1度、研修会を開催し全職員が理解し、行動制限をしないケアに取り組んでいる。法人主催の研修会にも参加し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修等で、全職員が理解できるよう勤めている。 制度利用が必要な入居者様には説明し、関係者との話し合う機会を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書・重要事項説明書にて詳しくご説明し、不安な点や疑問を残さないように詳しくご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回の第三者委員の他、ご意見箱を設置し、運営に生かせるようにしている。	コロナ感染防止のために、家族と利用者の面談を制限している。運営推進会議も開催しないので、その場で家族の意見を伺う機会もない。その為に電話で要望を聞き、お知らせ、法人施設だより等で利用者の状況を知らせている。	利用者と面会できない家族にとっての、ホームからのお知らせや写真は何よりも安心感を与えている。 (広報誌・ご利用者ご家族の広場より)引き続きの広報活動の充実を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各部会、職員会議やミーティングで意見を述べる機会があるととも個別面談も定期的に行い、意見を反映させている。	施設長は人事考課の個人面談、月例会議の場で全員と話し合い、人間関係が良いホームづくりに努めている。職員からの改善提案があれば、積極的に介護(支援)に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に業務評価を定期的に行っている。各自が向上心を持って働けるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修や、資格取得に向けて、広く告知し、シフト等を調整し、研修や資格取得をし易い環境づくりに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部の各部会に参加し専門的知識や同業者との交流を図っている。また市内の同業者施設を見学させていただき質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申請時本人やご家族と面談又は自宅や病院に訪問し、本人の不安や要望に耳を傾け信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の面接同様、入所前から傾聴しこまめに連絡をとり、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、インテーク時に要望や現状を把握した上でケアマネや関係者との連携をとりながら必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や庭仕事等日常のことから年中行事の仕方、長年習慣になっていること等その時々にご相談し教えて頂き一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるよう電話や手紙で近況を報告し、その時のご本人様の状況を説明し、一緒に考えていただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りやイベントなど昔馴染みの場所や行事に出掛け、他者との関係継続に努めている。 親類や知人の方が訪問され、昔からの関係を保っている。	新型コロナウイルス感染予防のため地域のイベントが中止、外出(会食・ドライブ)も難しくなり、ホーム周辺の散歩に留めている。室内のレクリエーションを工夫し皆で楽しみ、家族には写真入りのお便りで様子を知らせ家族との繋がりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作品作りやレクリエーション等、日常の活動を通して一緒に考え、行動することを通して、仲間として支えあいの気持ちを持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の不安を少しでも軽減していただくよう、細やかにご説明している。退去されても電話をして、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションで思いや希望を把握するよう努めている。 日常の会話やしぐさ、表情等から本人の意向を汲み取れるよう努力し、職員間で検討している。	新型コロナ禍のため外出は難しく、室内で皆で出来るゲームを考え、利用者が積極的にゲームに参加し、楽しい毎日を過ごせるように工夫している。職員は利用者一人ひとりに寄り添い、思いや希望を把握して支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、サービス利用経験などはほぼ把握できている。 本人の話を聞いたり、ご家族来所時に必要な情報を得、基本情報・ケア対応に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は業務に入る前記録の確認をし、朝夕の申し送りでも日中・夜間の記録の確認を行っている。また、個々の身体状態に応じて個別的な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の会話や行動を職員会議等で話し合い、ケアの仕方について多方向からみた介護計画を作成している。	毎月カンファレンスを実施する。日常の様子から問題点を見つけ、ケアの方法を話し合い介護計画を作成している。急変や問題が生じた時はその都度カンファレンスを開催している。職員や医師、家族の意見を基にモニタリングも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者様の様子や言動に注意し、職員間で情報を共有、利用者様のケアについて職員同士で話し合い、どうすればよくなっていくか話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	細やかに連絡を取る中で、ご家族の要望を聞き取りし、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今出来る可能な範囲で、民生委員、ボランティア、知人、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及びご家族の意向を伺い確認している。専門医受診等の際は適切な診療を受けられるよう支援している。	入居時には協力医による月2回の診察や健康診断、また訪問歯科の定期的な訪問があることを説明している。眼科などの専門医の受診は、利用者や家族の希望を聞き、職員が同行するなどして、適切な診療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活の中で捉えた情報や気づきに関して月2回の受診の際に主治医へ伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診やケアを受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者やご家族様と連絡を密にとり、安心して治療ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、ターミナルケアは実践していない為、当ホームでの対応が難しいと考えられた場合は、協力医療機関又は老健施設への入所等を薦めている。	ターミナルケアは実践していない事を入居時に家族へ説明し同意を得ている。終末期を迎え、ホームでの対応が困難となった時は、家族の意向を踏まえながら、法人系列の老健施設等の入所を提案し対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部の研修を通して速やかに実践できるよう行っている。マニュアルを整備し、研修の度に再確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を年2回実施している。火災通報連絡網に法人施設の協力体制を築いている。	定期的に年2回行っている。法人4施設の協力体制も整備され連絡網で繋がり、応援体制も整備されている。昨年台風災害も経験しており、備蓄品も整っており、食品は3日分は確保している。感染症等の基本対策、職員研修など整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーの確保については、内部研修、マニュアル等により職員全員が認識しており実践できている。	内部研修や各職員の情報交換等により、尊厳やプライバシーの配慮ができるように指導している。利用者の名前は家族に了解を得て愛称で呼び、こまめに声掛けしている。入居後も落ち着いて生活できるよう一人ひとりに見合った対応に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常で介護している中で、一つ一つ自分で決定していただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々その日の体調や気分等を見極め声かけなどで以降を確認しながら支援しているが、施設工事等が入った場合等、どうしても一人にしておけない場面等ではその限りではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に本人の希望を聞きながら支援している。 日ごろから季節や場に合わせて身づくろいの援助に心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事作り・食器洗い等を行っている。旬の食材を使った食事や季節毎のおやつ作りを一緒に行っている。	利用者と一緒に食事作りを基本とするが、年々状態は低下し手伝うことが難しくなっている。季節を味わえる旬の食材を使い、利用者は食事を楽しみにしている。食べるのが難しくなった利用者には、きざみ食やミキサー食で提供する等工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年2回の健康診断の結果を踏まえて栄養バランスを考えた食事を提供している。また、水分摂取量は毎日記録をとって、水分摂取を進めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別的な方法で食後口腔ケアを行っている。 状態に応じ歯科医院への報告、相談、来診等連携を図っている。また、二ヶ月に一回定期的な口腔ケアを訪問歯科に頼んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけによりトイレ誘導、夜間も声かけにより失敗がないよう、自尊心を傷つけないような声かけを行っている。(なるべくおむつを使用しないよう心掛けている)	介護記録等で排泄パターンを把握している。時間を見計らい利用者の仕草からも読み取り、耳元で声掛けしトイレに誘導している。トイレで排泄することを習慣としている。身体の状態によって、夜間はオムツで対応している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事や水分をこまめにとり頂くなど個々にあった方法で支援している。おやつは、食物繊維の多いおやつを手作りし、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人個人のタイミングをみて入浴の声掛けを行い、楽しんでいただけるよう、入浴剤等でも変化をつけて楽しんでいただいている。	週4回の入浴を基本としている。民家を改築したグループホームで珍しく豪華な岩風呂があり、温泉気分が味わえる。拒否ある利用者には時間をかけてタイミングをみて誘導し、シャワー浴に変更したり、好みの入浴剤を使用する等工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や健康状態に応じて柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量について全職員は理解している。服薬は個々にあった方法で支援している。症状の変化が見られた場合、主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとにより充実した時間を感じ、気分転換できるよう支援している。また希望に応じた手作りおやつ等も楽しませている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に地域のイベントや外食等に出掛けたり、花見やカラオケ大会、日帰り旅行に出掛けたり本人の希望を考慮した外出に努めたが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため実施していない。	今年度は新型コロナウイルス感染予防のために、毎年参加している地域のイベント等が行われず、ホームの日帰り旅行や外食も出来なくなっている。外出支援は、ホームの周辺やを散歩するだけに留まっている。其のため外気浴・屋内での歩きやレクリエーション等で気分転換が出来る様に工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じた支援を行っている。お金を所持していることで安心する方は、小額であるが所持しており、トラブルにならないように気配りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたい方には、その都度かけていただいている。また、手紙やはがきを書ける方には書いて頂き、書けない方には支援をして書いて頂くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾り、四季を通して季節を感じることが出来る工夫をしている。 ホール内の壁に季節を感じる製作物や楽しかった思い出を飾っている。居間や居室は光を多く取り入れる工夫や壁の色等にも配慮している。	民家を改築したホームである。日中の大半を過ごしている居間はのんびりとした日当たりの良い、居心地よく過ごせる空間となっている。今年はコロナ禍のため外出は難しく、、ホーム内を季節の花を飾る等して、季節を感じることが出来るように工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の気分に応じて過ごしていただけるよう、ソファをホールに置いたり、庭に椅子を配置し気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただき、馴染みの品物を持参していただいたり、ご家族の写真を飾るなどしている。	入居時に自宅で長年使用していた筆筒や机等を持ち込み、動線を考え配置している。利用者と職員と一緒に整理・掃除を行い、写真や利用者自作の品物を飾り、落ち着いた過ごせる部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のわかりやすい表示で、個々の力が発揮できるよう安全な環境づくりに努めている。		